

【活動報告】

令和5年度東京都公文書館秋企画展

「東京府文書にみる多摩と東京

—多摩地域東京府移管130年—」

東京都公文書館 史料編さん担当

佐藤 佳子

はじめに

東京都は、特別区23区と島しょ部、多摩地域の市町村で構成されている。このうち、多摩地域は、明治26年（1893）4月に神奈川県から東京都の前身である東京府に移管されたという来歴を持っている。

そこで、令和5年（2023）が多摩地域東京府移管130年の節目にあたることから、多摩地域と江戸・東京がどのような結びつきを持ち、なぜ東京府に移管されることになったのかを、主として当館が所蔵する東京府文書（重要文化財）を用いて明らかにする展示を企画した。

展示期間：令和5年10月20日～12月19日

開催場所：当館展示室・アーカイブウォール



ポスター

1 展示構成と内容

以下の5つのコーナーと、現在に至る多摩地域の沿革を案内するコーナーに分けて展示を構成した。

- I 江戸時代の多摩
- II 神奈川県下の多摩
- III 東京の水源として
- IV 西南北多摩郡東京府移管 甲武鉄道の開業
- V 首都東京と多摩

以下、各コーナーの概要を紹介する。

I 江戸時代の多摩

江戸時代の多摩地域の特徴を、天下の城下町である江戸との関係から解説し、18世紀半ばの江戸近郊を描いた「江戸傍近図」と、19世紀に描かれた地誌「武蔵名勝図会」、幕末期の地図「武蔵国全図」によって紹介した。

多摩地域は、江戸に住む人々（将軍や幕臣、大名以下の武

江戸傍近図（部分）古川古松軒
654-02-03-05 (ZA-118)

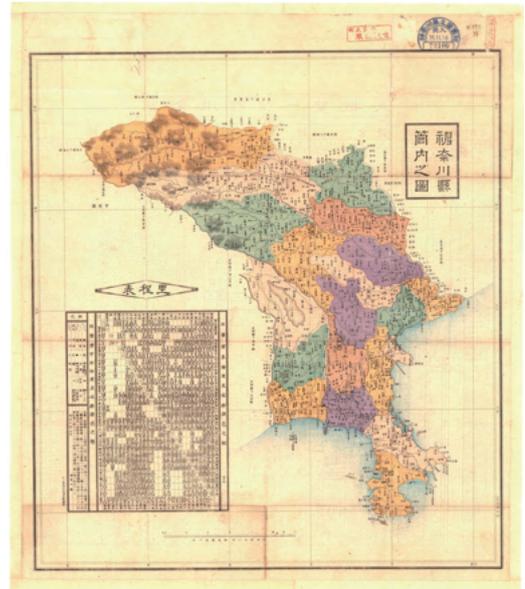
士やその需要を支える町人たち)のライフラインである「上水」を供給する水源としての役割や、多摩地域で生産される様々な資源(材木・薪炭・石灰・農産物等)の供給地としての役割、江戸近郊の行楽地としての役割を果たしてきた。

一方、玉川上水をはじめとする上水路が水に乏しかった武蔵野の原野に引かれることで多くの新田村落が誕生したり、江戸を中心とする交通網の整備によって宿場町が発展するなど、江戸との関係が多摩地域に変化をもたらした。

II 神奈川県下の多摩

明治維新を経て、近代国家として歩みはじめた日本では、地方を統治するしくみは大きく変わった。このコーナーでは、明治4年(1871)前後から東京府に移管されるまでを対象に、神奈川県下にあった多摩地域の行政区画変遷を紹介した。

明治4年、廃藩置県・府県統合を経て多摩地域はいったん東京府と入間県に分かれて所属することになった。ところが、外国人遊歩地の管理上の問題から、神奈川県が異議を申立て、多摩郡全体が神奈川県に移管された。しかし多摩の東部地域32か村(現中野区・杉並区)は、地理的にも経済的にも東京と関係が深いとして翌5年再度東京府へ移管された。同11年(1878)郡区町村編制法が施行されると、神奈川県域の多摩郡は西多摩・南多摩・北多摩の三郡に分かれ、東京府に移管された地域は東多摩郡となり、多摩は4つの郡に分かれることになった。



神奈川県管内之図 明治7年
神奈川県立図書館蔵

III 東京の水源として



〔多摩川水源地略図〕 芳野-001

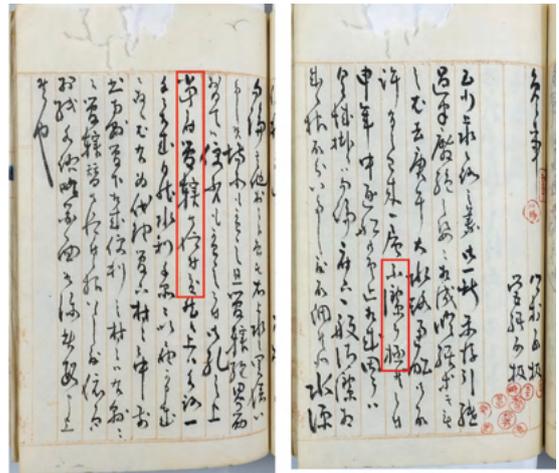
首都東京における飲料水は、江戸時代以来の上水道である玉川上水や神田上水等によって供給されていた。いずれもその水源は多摩地域にあり、特に玉川上水は取水口である羽村から四谷大木戸までの内、約7割が神奈川県下にあった。

このコーナーでは、他県下にある水源を管理し、安定的に飲料水を供給するため、東京府が行った施策を紹介した。

玉川上水は、江戸幕府により厳重に管理されていたが、明治維新後は、民部省土木司を経

て、大蔵省土木寮が管理するようになった。しかし、十分な管理が行われず、水路上に船を航行させたり、汚水が流入するなど、上水の管理に種々の問題が生じた。

そこで明治4年（1871）11月、東京府が配水管理に携わるようになり、翌5年には羽村取水堰等の水源施設も東京府に移管され、権限が強化された。上水の水質を憂慮した東京府は、5年政府に水質悪化の原因となった玉川上水の通船停止を求めて認められ。翌6年に初めて上水路沿いの多摩地域を東京府の管轄に移すことを政府に打診したが、認められなかった。さらに7年に文部省司薬場に依頼し、初めて上水の水質を科学的に調査した。また同11年（1878）多摩川の洪水に際して東京府は多摩川の水源地調査を行い、水源地を確定した。



玉川上水水源地の東京府移管上申 606.D3.10

明治19年（1886）に発生したコレラの大流行を経験した東京府は、上水管理強化のため玉川上水の沿岸だけでなく、上流の水源地を含む西多摩・北多摩郡の東京府移管を政府に上申したが、認められなかった。

IV 西南北多摩郡東京府移管

このコーナーでは、移管決定過程や移管をめぐる揺れた多摩地域の動向等を、東京府や国の公文書等でたどった。

明治24年（1891）11月、東京府の要望によって伐採が禁止されていた西多摩郡内にある玉川上水の水源地涵養林が、西多摩郡民の上申を受けて伐採解除されてしまった。これをきっかけに東京府知事富田鉄之助は、水源管理を東京府に一元化するため、多摩地域の移管を目指した。

当初富田は西・北多摩二郡の移管を求めていたが、神奈川県知事内海忠勝は、県内の政治状況を踏まえ、南多摩郡も移管対象に加えることを求め、明治25年両知事は各々西南北多摩郡移管の上申書を政府に提出した。



第12代 東京府知事富田鉄之助 肖像画 肖像-012



左) 三多摩郡引継書類・神奈川県引継書類 620.C8.05・604.C6.04
 右) 神奈川県下武蔵国西多摩郡北多摩郡南多摩郡ヲ東京府ノ境域ニ移スノ件 国立公文書館蔵

第4回帝国議会で境域変更法案が提出されると、多摩地域の人々は賛成派・反対派に分かれて活発な運動を展開した。法案は10日間の審議の結果、賛成多数で可決され、同26年4月1日に西南北多摩郡は東京府に移管されることとなった。移管の是非に揺れた多摩地域では、移管後もしばらくの間混乱が続いた。

甲武鉄道の開業

東京府への移管を後押しした要因として、明治22年（1889）に開業した甲武鉄道（現JR中央線）を紹介した。幕末の開港以来、生糸等の交易品が多摩地域から横浜に向けて運ばれるようになり、神奈川方面とのつながりを深めたが、甲武鉄道の開通はこれに対し、東京との距離を縮め社会経済的な関係性を強める役割を果たすことになった。

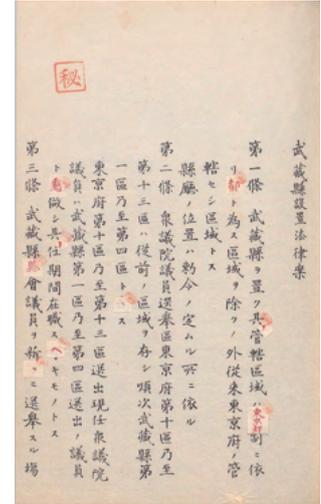
V 首都東京と多摩

このコーナーでは、多摩地域が東京府に移管されてから昭和18年（1943）に東京都が誕生するまでの50年間の多摩と東京の関係を取り上げた。この間、東京にどのような首都制度を構築するかについて様々な内容の都制案が構想された。

こうした諸案では、しばしば多摩地域を東京から分離するという考えが示された。すなわち、移管により形成された多摩地域と東京の紐帯が安定していたわけではなかったことがわかる。

多摩の沿革

明治26年（1893）多摩地域東京府移管の段階と、東京都が発足した昭和18年（1943）、令和5年（2023）現在の行政区画地図を並べて展示した。地図を比較対照することで、130年の間に合併等により市町村の区画が変化していることが一目でわかる。



武蔵県設置法律案
国立公文書館蔵

2 展示上の工夫

歴史資料に興味のある方々だけでなく、より多くの来場者に展示を楽しんでいただくため、以下の展示上の工夫を行った。

(1) 床面シートによる地図複製展示

企画展示においては、毎回資料画像をシートに出力して床面に貼って展示している。今回の展示では、多摩地域の行政区画を取り上げたので、その変遷をたどれる地図を拡大して、展示室床面に貼付した。地図は以下の4点である。

「東京府・神奈川県 外国人遊歩規程之図」年不詳 神奈川県立図書館蔵

「神奈川県管内之図」（縮尺：約1/60000）
明治7年（1874）9月 神奈川県立
図書館蔵

「神奈川県管下之図」明治16年（1883）
神奈川県立図書館蔵

「東京府郡区全図」明治29年（1896）
請求番号：654-07-02（ZC-013）

いずれの地図も近づいて記載内容をつぶさに確認できるため、好評を得た。



東京府郡区全図 明治29年 654-07-02（ZC-013）

(2) 行政区画変遷パズル

〈多摩の沿革〉コーナーで展示した多摩地域の行政区画変遷地図をパズル化し、アーカイブウォールを利用して、来場者がパズルを通して区画の変遷を楽しみながら実感していただけるようにした。

これは子ども向けに企画したものであったが、意外に成人の来場者にも好評であった。



(3) 「展示資料を読んでみよう！」

昨年度から、展示の際に特定の資料を選び、資料写真に解説文と現代語訳を付して「展示資料を読んでみよう！」と題した解説資料を作成・配布している。

今回は、〈IV 西南北多摩郡東京府移管〉コーナーで展示した、多摩地域移管直前の西多摩地域における移管反対派の動向を内報した公文書「神奈川県西多摩郡不穩の景況上申及通知」を取り上げ、資料を作成した。

3 展示関連企画について

企画展示開催にあたって、以下の関連企画を実施した。

(1) 講演会

たましん地域文化財団の保坂一房氏を講師に迎え、当館研修室において関連講演会を開催した。

演題：「多摩東京移管 130 年の軌跡—帰属・拡大・自立—」

開催日時：令和 5 年 10 月 28 日（土曜日）午前 10 時 30 分—12 時

募集定員 60 名のところ、35 名の申し込みがあり 31 名が参加した。従前の講演会に比較すると若い年齢層が多くみられた。参加者の募集を WEB フォームで行ったことと、土曜日に開催したことが影響したものと考えられる。

(2) 「超たまらん博」への出展

総務局行政部が多摩移管 130 年を記念して開催したイベント「超たまらん博」（10 月 28、29 日、立川市で開催）へ参加した。企画展示の内容をアレンジしてパネル展示を行ったほか、前掲多摩地域の行政区画変遷地図を用いたパズルを提供して、好評を博した。イベントをきっかけに来館された方もおり、広報効果が得られた。

(3) 文化財ウィークへの参加

例年当館が秋季開催する企画展示は、教育庁主催の文化財ウィークに参加している。本年も企画事業として参加し、同ウィーク期間中の展示来場者は 1,000 名を超えた。

(4) ギャラリートーク

新館移転開館後、初めての試みとして展示期間中に 2 回、ギャラリートークを開催した。開催日は 11 月 10 日、12 月 8 日の 2 回、いずれも金曜日の 14 時から 20 分程度の予定で行った。実際の解説には 45 分程かかったので、時間については今後検討する。参加者は 1 回目が 7 名、2 回目は 11 名で、この内 2 名は両方に参加されていた。展示室の広さからすると、10 名前後が適正な人数であると思われる。

(5) 展示紹介動画の作成

展示期間に来場されなかった方々向けに、展示内容の紹介動画を作成した。投影時間は約12分、Youtubeにて公開した。(URL : <https://www.youtube.com/watch?v=60jFN-KNZoM>)

(6) 展示広報

例年実施している都庁記者クラブへのチラシ配布やポスター・チラシの図書館等への配布、館ホームページへ掲載のほか、下記の広報活動を実施した。

- ・SNS (facebook、Instagram、X (旧 Twitter)) による発信
- ・地元広報紙 (広報たまちいき) への掲載
- ・ケーブルテレビへの取材依頼

おわりに

最後に来場者アンケート結果を簡単に紹介する。

来場者は約1,700名(自動計測機による)で、年齢層は70歳代以上が35%、60代28%、50代17%、30代8%、40代20代が5%、19-13歳が2%と、60代以上が6割を占めた。また、来場者の約8割が多摩地域在住者であった。来場前に当館を利用したことがある方は51%、知っていたが利用したことがない方が27%、今回初めて当館を知った方が22%で、約半数が初めての来館者であった。展示内容については、大変よかった62%、よかった35%と97%の方が高い評価をしてくださった。自由記述では、「三多摩が神奈川県から東京へ移管された経過がわかりやすく展示されていて良かった。」「公文書館と聞いて文章が書かれたものばかりの展示かなとイメージを持っていたが、地図や絵も多くあり見やすい展示だと思った。」という趣旨の感想が寄せられ、「多摩移管についてその背景やその後の経緯も含めて展示する」「東京府文書だけでなく、地図などの資料を展示し、わかりやすく解説する」という本展示の目的を達成することができた。

これまで史料編さん担当では、多摩地域の東京府移管について、基礎的な史料集の編さんを行ってきた(史料復刻「西南北三多摩 境域変更通覧」平成5年、『東京市史稿』市街篇第85 平成6年)。こうした史料集は、専門的な調査研究に欠かせない文献として利用されているが、一般の方々が気軽に読めるものとは言い難い。今回の企画展示は、史料集の内容をわかりやすい形で提供することができた点で、普及事業としての意義を果たすことができたとと言える。

今後も当館の豊富な所蔵資料について、基盤となる史料編さん事業を継続すると共に、その成果をより多くの方々に親しみやすい形で提供していきたい。

なお今回の展示にあたって、下記の方々にご協力をいただいた。ご氏名・機関名を記して厚く感謝を申し上げます。

神奈川県立図書館 独立行政法人国立公文書館 公益財団法人たましん地域文化財団
 公益財団法人東日本鉄道文化財団鉄道博物館 東京都立中央図書館 保坂一房
 青梅山無量寿院金剛寺 公益財団法人東京都市町村自治調査会(敬称略 順不同)